

目 次

まえがき	iii
謝 辞	v
訳者序文	vi
第1章 序 論	1
1.1 UNIXの歩み	2
1.2 プログラム開発環境	5
1.3 UNIXシステムのご概念	6
1.3.1 ファイル・システム	6
1.3.2 プロセス	6
1.3.3 シェル	7
第2章 システムの始動	9
2.1 ログイン	9
2.2 コマンド	10
2.3 端末特性	12
2.4 ドキュメンテーション	13
2.5 ファイル・システム	15
2.5.1 簡単なファイル操作	17
2.5.2 ディレクトリ操作	19
2.6 シェル	20
2.6.1 パイプとフィルタ	21
2.6.2 ファイル名の作成	22
2.6.3 引用	24
2.6.4 プロンプト	24
2.6.5 シェルとログイン	25
2.6.6 ま と め	25
2.7 便利なコマンド	26

2.7.1	通信機能	26
2.7.2	システム状態の確認	29
2.7.3	プロセスの管理	30
2.7.4	その他のコマンド	32
2.7.5	ま と め	36
第3章 ファイルの編集		39
3.1	エディタ ed	39
3.1.1	ファイルの作成	39
3.1.2	行 編 集	41
3.1.3	文字列サーチ	45
3.1.4	文字列編集	46
3.1.5	パターン照合	49
3.1.6	広域編集	52
3.1.7	そ の 他	51
3.2	エディタ vi	55
3.2.1	ウインド制御	56
3.2.2	カーソル制御	57
3.2.3	追加と削除	58
3.2.4	行 編 集	59
3.2.5	テキストの移動	59
3.2.6	ま と め	61
3.2.7	その他の機能	61
第4章 シェル・コマンド		67
4.1	シェル手続き	68
4.1.1	流れ制御-for	69
4.1.2	流れ制御-case	70
4.1.3	here ドキュメント	72
4.1.4	シェル変数	74
4.1.5	test コマンド	78
4.1.6	流れ制御-while と until	78
4.1.7	流れ制御-if	79
4.1.8	コマンドのグループ化	82
4.1.9	シェル手続きのデバッグ	82
4.1.10	man コマンド	83
4.2	高度な使い方	84

4.2.1	パラメタの転送	84
4.2.2	パラメタの置換え	85
4.2.3	コマンドの置換え	87
4.2.4	評価と引用	88
4.2.5	エラー処理	91
4.2.6	異常(フォールト)処理	92
4.2.7	コマンドの実行	95
4.2.8	入出力先の変更	95
4.2.9	シェルの呼出し	97
4.3	組込みコマンド	98
第5章 プログラム言語 C		103
5.1	Cプログラムの例	104
5.1.1	簡単なプログラム	104
5.1.2	8進表示のダンプ	105
5.1.3	平均距離の算出	107
5.2	言語	110
5.2.1	構文要素	110
5.2.2	式と演算子	113
5.2.3	制御の流れ	118
5.2.4	関数	121
5.2.5	配列とポインタ	122
5.2.6	構造体	127
5.2.7	Cプリプロセッサ	132
5.2.8	言語構造	135
5.2.9	標準Cライブラリ	137
5.2.10	補足	140
5.3	プログラムの構造と取り扱い	141
5.3.1	プログラムのコンパイル	141
5.3.2	make コマンド	142
5.3.3	lint コマンド	145
5.3.4	プログラム・ライブラリ	145
5.3.5	性能測定	147
5.3.6	その他のツール	147
5.4	Cプログラムのデバッグ	148
5.4.1	コア・イメージによるデバッグ	149

5.4.2	adb コマンド	150
5.4.3	adb 書式	151
5.4.4	adb におけるブレイクポイントの設定	152
5.4.5	アドレス・マップ	153
第 6 章 UNIX システムでのプログラム作り		155
6.1	引き数の書き方	155
6.2	基本的な入出力機能	159
6.2.1	システムコール open	160
6.2.2	ファイルの read と write	161
6.3	ファイルシステム補足	163
6.3.1	ファイルの使用権	163
6.3.2	ファイルモードの変更	164
6.3.3	ディレクトリの使用	166
6.3.4	グループ	166
6.4	高度な入出力機能	168
6.4.1	ファイルの生成と削除	168
6.4.2	乱呼出し入出力	173
6.4.3	ファイルの状態	174
6.4.4	端末入出力	178
6.4.5	パイプ	180
6.5	プロセス	181
6.5.1	プロセスの実行	181
6.5.2	システムコール fork	182
6.5.3	システムコール wait	182
6.5.4	システムコール exec	183
6.5.5	システムコール exit	184
6.5.6	プロセスの環境	184
6.6	シグナルと割込み	186
6.6.1	シグナル	186
6.6.2	シグナルの送信	188
6.6.3	シグナルの受信	188
6.6.4	バックグラウンドプロセス	190
第 7 章 文書の作成		193
7.1	nroff と troff	193

7.1.1	ドキュメント作成の方法	194
7.1.2	nroff の基本的なコマンド	196
7.1.3	高級なコマンド	203
7.1.4	マクロ・ライブラリ	220
7.2	文書出力ツール	230
7.3	文書処理ツール	235
7.3.1	col コマンド	236
7.3.2	diction コマンド	236
7.3.3	eqn コマンド	236
7.3.4	ptx-並べ替え型索引の作成	239
7.3.5	refer コマンド	240
7.3.6	spell コマンド	242
7.3.7	style コマンド	243
7.3.8	tbl コマンド	243
第 8 章	データ操作ツール	247
8.1	ツールについての簡単な説明	248
8.1.1	awk-報告書の作成	250
8.1.2	cmp-2つのファイルの比較	255
8.1.3	comm-共通行の抽出	255
8.1.4	diff-ファイルの差異	256
8.1.5	grep-パターンの抽出	256
8.1.6	join-ファイルの結合	257
8.1.7	sed-ストリーム・エディタ	260
8.1.8	sort-ファイルのソートとマージ	261
8.1.9	tail-ファイルの後部	262
8.1.10	tr-文字の変換	263
8.1.11	uniq-重複行の削除	263
8.1.12	field-カラムの選択	264
8.1.13	lex と yacc	264
8.2	簡単な例題	265
8.2.1	簡単なデータベースの管理	265
8.2.2	C のクロス・リファレンス・プログラム	268
8.3	テニス・ランキング・システム	277
8.3.1	構成	278
8.3.2	試合結果の投入	279

8.3.3	週毎の動向	284
8.3.4	ランキングの更新	286
8.3.5	週毎のランキングの打ち出し	292
8.3.6	シーズンの開始と終了	297
8.4	field コマンドの作成	301
補遺 1	コマンド	305
補遺 2	システムコール	370
補遺 3	C サブルーチン	395
補遺 4	adb コマンド	415
補遺 5	ed コマンド	418
補遺 6	sh コマンド	420
補遺 7	troff コマンド	423
補遺 8	vi コマンド	431
補遺 9	マクロ・ライブラリ	435
補遺10	ms マクロ・ライブラリ	444
補遺11	ASCII 文字セット	449
参考文献		451
索引		455

